

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

令和6年2月15日 午後用

第75回獣医師国家試験 実地試験問題 (D)

注意事項

1. 問題数は60問であり、解答時間は2時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを1つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1問につき2つ以上マークした場合には、そのうちの1つが正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうちE 3 ☑を横線で、
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ずHBの鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……   

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特
に注意すること。

課題 1 次の文を読み、問 1、問 2 に答えよ。

犬、ビーグル、雄、5 か月齢。重積発作を発症したのちに死亡。〔図 1 - A〕は肝臓の組織像 (HE 染色)、〔図 1 - B, C〕は大脳皮質の組織像 (B : HE 染色、C : 抗 GFAP 抗体による免疫染色像) である。

別冊 D 図 1 - A, B, C

問 1 最も疑われる疾患が示す病態として適切なのはどれか。

1. ケトン症
2. プロトポルフィリン血症
3. 高アンモニウム血症
4. 高ビリルビン血症
5. 銅代謝異常

問 2 〔図 1 - B, C〕の矢印で示される細胞の病理学的名称はどれか。

1. アルツハイマー II 型グリア
2. 桿状細胞
3. 脂肪顆粒細胞
4. 肥満膠細胞
5. 衛星希突起膠細胞

課題 2 次の文を読み、問 3、問 4 に答えよ。

犬、ビーグル、雄、9歳齢。前日から食欲がなく、ほとんど動かないとの主訴で来院。強直歩行が認められ、身体検査で体温 40.0℃、腰背部の知覚過敏が認められた。白血球数 18,000/ μ l、C 反応性蛋白 4.3 mg/dl であった。〔図 2〕は脊柱の X 線側方像である。

別冊 D

図 2

問 3 最も疑われる疾患はどれか。

1. 椎間板ヘルニア
2. 変形性脊椎症
3. 線維軟骨塞栓症
4. 椎間板脊椎炎
5. 椎体腫瘍

問 4 治療として最も適当なのはどれか。

1. 抗菌薬の投与
2. グルココルチコイドの投与
3. 片側椎弓切除術による逸脱椎間板物質の摘出
4. 筋力低下を遅延させるための理学療法
5. 病変部に対する放射線治療

課題3 次の文を読み、問5、問6に答えよ。

〔図3-A, B〕は手術に用いる鉗子である。

別冊D 図3-A, B

問5 この手術器具はどれか。

1. ペアン鉗子
2. バブコック鉗子
3. アリス鉗子
4. ケリー鉗子
5. サテンスキー鉗子

問6 この器具の用途として最も適切なのはどれか。

1. 腸管の把持
2. 腹壁の把持
3. 精管・血管の挫滅
4. 血管の一時遮断
5. 深部組織への結紮糸の誘導

課題4 次の文を読み、問7、問8に答えよ。

犬、ラブラドル・レトリバー、雌、10か月齢。左右前肢をそれぞれ挙上することがあったが、今朝から左後肢を挙上しているとの主訴で来院。〔図4-A〕は左後肢X線側方像、〔図4-B〕は股関節X線腹背像である。

別冊D
図4-A, B

問7 最も疑われる疾患はどれか。

1. 骨髄炎
2. 汎骨炎
3. 大腿骨遠位成長板骨折
4. 多発性骨髄腫
5. 肥大性骨異栄養症

問8 本疾患に関する記述として適当なのはどれか。

- a 骨内膜と骨膜の骨新生を生じる。
- b 多くは自然回復する。
- c 診断のために骨生検が必要である。
- d 二次的な関節炎が生じる。
- e 早期の外科手術が必要である。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題 5 次の文を読み、問 9、問 10 に答えよ。

〔図 5 - A, B〕は、我が国に生息する野生動物種である。

別冊 D 図 5 - A, B

問 9 この動物種に関する記述として誤っているのはどれか。

1. 対馬に生息する。
2. 原則として、捕獲、譲渡、輸出が禁止されている。
3. 環境省レッドリストにおいて絶滅危惧種に指定されている。
4. 飼育下繁殖事業が行われている。
5. 生息地が「生息地等保護区」に指定されている。

問 10 この動物種の個体群への影響が危惧されている外来種はどれか。

1. アライグマ
2. イエネコ
3. ノヤギ
4. ハクビシン
5. フイリマンゲース

課題 6 次の文を読み、問 11、問 12 に答えよ。

羊、サフォーク種、雌、2 歳齢。元気消失、食欲不振を主訴に診察した。可視粘膜は蒼白で、ヘマトクリット値は 14%であった。〔図 6〕は末梢血液塗抹標本の鏡検像である（ギムザ染色、×1,000）。

別冊 D

図 6

問11 最も疑われる疾患はどれか。

1. ヘモプラズマ症
2. トキソプラズマ症
3. エールリヒア症
4. ジアルジア症
5. トリパノソーマ症

問12 本症例の治療薬として最も適切なのはどれか。

1. サルファ剤
2. ペニシリン
3. テトラサイクリン
4. イミドカルブ
5. ジミナゼン

課題7 次の文を読み、問13、問14に答えよ。

〔図7-A, B〕は、ある病原体に感染した豚の特徴的な病変である（A：心臓、B：皮膚）。

別冊 D
図7-A, B

問13 この病原体に関する記述として正しいのはどれか。

- a グラム陽性菌である。
- b 偏性嫌気性である。
- c べん毛を有する。
- d インドールを産生する。
- e 硫化水素を産生する。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問14 本疾患に関する記述として最も適切なのはどれか。

- 1. 〔図7-A〕の病変を示す症例では急性に経過する。
- 2. 〔図7-B〕の病変を示す症例では慢性に経過する。
- 3. 主に呼吸器感染である。
- 4. 保菌豚は糞便中に病原体を排菌する。
- 5. 治療薬としてポリミキシンBが有効である。

課題 8 次の文を読み、問 15、問 16 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雄、2 か月齢。突然苦悶を呈して起立不能となり、その後腹囲膨満がみられた。可視粘膜は蒼白で、四肢冷感、黒色タール便が認められた。〔表 8〕は血液検査結果である。

別冊 D 表 8

問15 血液検査結果の解釈として適切なのはどれか。

- a 血小板減少症
- b 好中球増多症
- c 低アルブミン血症
- d 高グロブリン血症
- e A/G 比の増加

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問16 最も疑われる疾患はどれか。

- 1. クリプトスポリジウム症
- 2. ヨーネ病
- 3. 第一胃鼓脹症
- 4. 第四胃潰瘍
- 5. 牛伝染性リンパ腫

課題9 次の文を読み、問17、問18に答えよ。

ヒトで食中毒が発生した。原因食品および患者の糞便を〔表9-A〕に示す組成の選択分離培地に塗抹して培養したところ、〔図9-B〕のコロニーが得られた。

別冊 D 図表 9-A, B

問17 最も疑われる原因菌はどれか。

1. 黄色ブドウ球菌
2. 腸炎ビブリオ
3. サルモネラ属菌
4. ウェルシュ菌
5. 腸管出血性大腸菌 (O群血清型 O157)

問18 この食中毒の予防に関する記述として適切なのはどれか。

1. 手指に化膿巣のある人は食品に直接触れない。
2. 煮込み料理を加熱調理後、速やかに冷蔵温度まで冷却する。
3. 我が国では生食用鶏卵に消費期限を設けている。
4. 我が国では牛の肝臓の生食を禁止としている。
5. 海産魚介類を漁獲後、消費するまで冷蔵温度で保存する。

課題10 次の文を読み、問 19、問 20 に答えよ。

馬、交雑種、雌、1 歳齢。心悸亢進と激しい疝痛症状を呈し、腸蠕動音は聴取できなかった。〔図 10 - A〕は右腹壁からの超音波検査像、〔図 10 - B〕は開腹手術時の外観である。

別冊 D
図 10 - A, B

問19 最も疑われる疾患はどれか。

1. 小腸捻転
2. 網嚢孔ヘルニア
3. 盲腸捻転
4. 結腸捻転
5. 腸重積

問20 本疾患の原因として適当でないのはどれか。

1. 腸炎
2. 回虫の多数寄生
3. 青草の過食
4. 腫瘍
5. 過去の腸管手術歴

課題11 次の文を読み、問 21、問 22 に答えよ。

〔表 11〕 は各種消毒薬の抗微生物スペクトルをまとめたものである。

別冊 D 表 11

問21 エタノールの抗微生物スペクトルはどれか。

1. ア
2. イ
3. ウ
4. エ
5. オ

問22 炭疽発生時の防疫措置として、踏込消毒槽に使用する消毒薬の抗微生物スペクトルはどれか。

1. ア
2. イ
3. ウ
4. エ
5. オ

課題12 次の文を読み、問 23、問 24 に答えよ。

猫、雑種、避妊雌、1歳齢。数日前からの活動性低下を主訴に来院。可視粘膜は蒼白であり、末梢血液のヘマトクリット値は19%であった。〔図12-A, B〕は、症例の末梢血液塗抹標本の鏡検像である（A：ライトギムザ染色、B：ニューメチレンブルー染色、×1,000）。

別冊 D

図 12 - A, B

問23 矢印の構造物に関する記述として適切なのはどれか。

1. ヘモグロビンの酸化変性産物
2. 赤血球内の病原体
3. 赤血球の脱核に伴うもの
4. 赤血球の成熟時に残存した核の遺残物
5. 赤血球膜が破壊されて生じたもの

問24 この構造物が認められる疾患として最も適切なのはどれか。

1. 免疫介在性溶血性貧血
2. 赤白血病
3. アセトアミノフェン中毒
4. バベシア症
5. ビルビン酸キナーゼ欠損症

課題13 次の文を読み、問 25、問 26 に答えよ。

猫、雑種、去勢雄、13 歳齢。数日前から元気食欲がなく嘔吐しており、排尿がみられないとの主訴で来院。身体検査で膀胱は小さく、腰背部の圧痛を認めた。〔表 13 - A〕は血液検査結果、〔図 13 - B, C〕は腹部超音波検査像（B：右腎領域、C：右腎尾側領域）であり、左腎は萎縮していた。

別冊 D
図表 13 - A, B, C

問25 最も疑われる疾患はどれか。

1. 尿管結石
2. 尿管腫瘍
3. 腎結石
4. 腎臓腫瘍
5. 嚢胞腎

問26 本症例に対する初期治療として適当なのはどれか。

- a 尿酸化剤の投与
- b ミネラルコルチコイド製剤の投与
- c L-アスパラギナーゼの投与
- d グルコースとレギュラーインスリンの静脈内投与
- e 腎瘻造設

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題14 次の文を読み、問 27、問 28 に答えよ。

〔図 14〕は国内の黒毛和種成牛における第二胃のホルマリン固定後の断面である。粘膜面に体長約 1 cm 大の寄生虫がみられた。

別冊 D

図 14

問27 この寄生虫はどれか。

1. 日本産肝蛭 (*Fasciola* sp.)
2. 双口吸虫 (*Calicophoron calicophorum*)
3. 臍蛭 (*Eurytrema pancreaticum*)
4. 槍形吸虫 (*Dicrocoelium dendriticum*)
5. 捻転胃虫 (*Haemonchus contortus*)

問28 この寄生虫に関する記述として正しいのはどれか。

- a 感染牛の新鮮便からミラシジウム形成卵が検出される。
- b 中間宿主はヒメヒラマキミズマイマイである。
- c 牛への感染源はメタセルカリアである。
- d 牛体内の幼若虫は肝臓実質を移行する。
- e 成虫は粘膜に咬着して吸血する。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題15 次の文を読み、問 29、問 30 に答えよ。

犬、トイ・プードル、雌、9 か月齢。外陰部のただれおよび尿漏れを主訴に来院。
〔図 15 - A, B〕は排泄性尿路造影 X 線像（A：側方像、B：腹背像）である。

別冊 D
図 15 - A, B

問29 最も疑われる疾患はどれか。

1. 気腫性膀胱炎
2. 膀胱破裂
3. 尿管結石
4. 膀胱腫瘍
5. 異所性尿管

問30 本疾患に関する記述として最も適当なのはどれか。

- a 壁外性異所性尿管は膀胱には開口しない。
- b リンパ節転移を高率に生じ予後不良である。
- c 腹腔内への尿漏出を続発することがある。
- d 尿管ステント設置術により尿漏れが改善する。
- e 外科治療単独では尿漏れが改善しないことがある。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題16 次の文を読み、問 31、問 32 に答えよ。

豚、ミニブタ、雌、2 歳齢。発情の発現が不規則で、発情時に陰核の肥大が認められた。〔図 16 - A, B〕は腹壁からの卵巣の超音波検査像である。

別冊 D 図 16 - A, B

問31 最も疑われる疾患はどれか。

1. 卵巣静止
2. 単胞性嚢腫
3. 多胞性大型嚢腫
4. 嚢腫様黄体
5. 黄体遺残

問32 本症例の治療に用いる薬剤として最も適切なものはどれか。

1. 性腺刺激ホルモン放出ホルモン (GnRH)
2. 卵胞刺激ホルモン (FSH)
3. eCG (PMSG)
4. PGF_{2α}
5. オキシトシン

課題17 次の文を読み、問 33、問 34 に答えよ。

〔図 17〕は我が国で「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」に基づいて届出のあった感染症の患者の月別推移である。

別冊 D

図 17

問33 この感染症はどれか。

1. レプトスピラ症
2. デング熱
3. ジアルジア症
4. ライム病
5. 細菌性赤痢

問34 この感染症またはその病原体に関する記述として適切なのはどれか。

1. 大洪水の後に大規模な発生がみられることがある。
2. 世界的には北半球を中心に発生がみられる。
3. シストは耐塩素性をもつ。
4. 主にネッタイシマカが媒介する。
5. 我が国ではワクチンが実用化されている。

課題18 次の文を読み、問 35、問 36 に答えよ。

猫、雑種、雌、3 か月齢。頻回に嘔吐し呼吸が速いとの主訴で来院。〔図 18 - A, B〕は胸部 X 線像（A：側方像、B：背腹像）である。

別冊 D 図 18 - A, B

問35 最も疑われる疾患はどれか。

1. 縦隔型リンパ腫
2. 縦隔気腫
3. 横隔膜ヘルニア
4. 胃拡張・捻転症候群
5. 食道裂孔ヘルニア

問36 本症例の治療として最も適当なのはどれか。

1. ケージレストによる保存療法
2. 胸腔ドレーンの設置
3. 胃の減圧
4. 抗がん剤の投与
5. 外科的整復

課題19 次の文を読み、問 37、問 38 に答えよ。

猫、雑種、避妊雌、11 歳齢。鼻汁、くしゃみ、鼻出血を主訴に来院。〔図 19 - A〕は病変部の造影 CT 検査横断像、〔図 19 - B〕は病変部の細針吸引細胞診像（ライトギムザ染色、×400）である。

別冊 D 図 19 - A, B

問37 最も疑われる疾患はどれか。

1. リンパ腫
2. 慢性副鼻腔炎
3. アレルギー性鼻炎
4. 扁平上皮癌
5. クリプトコックス症

問38 本症例に対する治療として最も適切なのはどれか。

1. 抗菌薬の投与
2. 放射線治療
3. グルココルチコイドの吸入
4. 外科手術
5. 抗真菌薬の投与

課題20 次の文を読み、問 39、問 40 に答えよ。

ある地域で流行した乳牛の感染症について、今後の対策を検討するため疫学調査を実施した。〔表 20〕は発生農場と無作為抽出した非発生農場における流行期間以前の飼養管理等について分析結果をまとめたものである。

別冊 D 表 20

問39 この疫学研究手法はどれか。

1. コホート研究
2. 横断研究
3. 生態学的研究
4. 症例対照研究
5. 介入研究

問40 現時点で感染症の発生に関する統計学的に解釈可能なリスク因子および防御因子の組合せはどれか。ただし、有意水準は 0.05 とする。

- | リスク因子 | 防御因子 |
|--------------|-----------------|
| 1. 大規模農場である | 牛舎内で専用長靴を使用する |
| 2. 牛を外部導入する | 農場内へは作業者のみ入場できる |
| 3. 新生子牛を群飼する | 農場敷地内で専用長靴を使用する |
| 4. 大規模農場である | 農場内へは作業者のみ入場できる |
| 5. 牛を外部導入する | 牛舎内で専用長靴を使用する |

課題21 次の文を読み、問 41、問 42 に答えよ。

猫、雑種、雄、3歳齢。鼻汁と流涙を主訴に来院。身体検査で〔図 21〕に示す口腔内病変が認められ、体温は 39.6℃であった。

別冊 D

図 21

問41 最も疑われる疾患はどれか。

1. 猫白血病ウイルス感染症
2. 猫クラミジア感染症
3. 猫カリシウイルス感染症
4. 猫伝染性腹膜炎
5. 猫ウイルス性鼻気管炎

問42 本疾患とその病原体に関する記述として適切でないのはどれか。

1. アシクロビルが有効である。
2. 室内飼育の猫でも感染しうる。
3. 回復後も病原体の持続感染がみられる。
4. エタノールは消毒効果が弱い。
5. ワクチンが使用されている。

課題22 次の文を読み、問 43、問 44 に答えよ。

豚に感染症を引き起こすウイルスに対する新規ワクチンの効果を評価するため、〔図 22〕に示す研究計画に沿った解析から、ワクチン接種群および対照群における感染症の発生に関する結果を得た。

別冊 D

図 22

問43 この疫学研究手法はどれか。

1. 症例対照研究
2. コホート研究
3. 臨床試験
4. 野外試験
5. 地域介入研究

問44 この研究およびその結果に関する記述として適当なのはどれか。

- a ワクチン使用の相対リスクは 0.125 である。
- b ワクチン使用の寄与リスクは 0.103 である。
- c 生産者には豚舎がどちらの群に割り付けられたかを伝える。
- d ワクチンによる効果は見られない。
- e ワクチン接種以外の操作については行わない。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題23 次の文を読み、問 45、問 46 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、10歳齢。乳量減少と下痢を主訴に診察した。体温 38.7℃、心拍数 72回/min、心音に異常は認められなかった。尿検査ではタンパク質が強陽性を示した。〔図 23 - A〕は症例の外貌、〔図 23 - B〕は排便の様子、〔表 23 - C〕は血液検査結果である。

別冊 D 図表 23 - A, B, C

問45 最も疑われる疾患はどれか。

1. 大腸菌性腸炎
2. 拡張型心筋症
3. 出血性腸症候群
4. サルモネラ症
5. アミロイドーシス（アミロイド症）

問46 診断に必要な検査として最も適切なのはどれか。

1. 腎臓の病理組織学的検査
2. 糞便からの病原体検出
3. 心臓超音波検査
4. 試験的開腹による病変部の触診
5. 血清蛋白分画検査

課題24 次の文を読み、問 47、問 48 に答えよ。

猫、ロシアン・ブルー、避妊雌、14 歳齢。今朝から突然ぐったりし、口を開けて呼吸をしているとの主訴で来院。身体検査では心拍数 240 回/min で過剰心音を聴取した。〔図 24 - A〕は心音図、左心室容積の時間変化曲線、心電図を表した模式図であり、〔図 24 - B, C〕は本症例の胸部 X 線像（B：側方像、C：背腹像）である。

別冊 D
図 24 - A, B, C

問47 〔図 24 - A〕の心音図上でギャロップを構成する過剰心音として最も適切なのはどれか。

- a ア
- b イ
- c ウ
- d エ
- e オ

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問48 初期治療として最も適切な薬剤はどれか。

- 1. フロセミド
- 2. オフロキサシン
- 3. イソプロテレノール
- 4. プレドニゾロン
- 5. アトロピン

課題25 次の文を読み、問 49、問 50 に答えよ。

犬、雑種、雄、5歳齢。2週間前から突然目が見えなくなったとの主訴で来院。両側性の散瞳性失明が認められ、対光反射は認めなかった。〔図 25 - A, B〕は左右の眼底写真、〔図 25 - C〕は視交叉レベルでの MRI 像（造影 T1 強調横断像）である。

別冊 D
図 25 - A, B, C

問49 最も疑われる疾患はどれか。

1. 進行性網膜萎縮
2. 網膜出血
3. 網膜剥離
4. 壊死性髄膜脳炎
5. 肉芽腫性髄膜脳炎

問50 本症例に対する治療として最も適当なのはどれか。

1. 有効な治療法はない
2. グルココルチコイドの投与
3. 網膜レーザー光凝固術
4. 抗痙攣薬の投与
5. 抗菌薬の点眼

課題26 次の文を読み、問 51、問 52 に答えよ。

牛、交雑種、去勢雄、8 か月齢。濃厚飼料の給餌内容を変更したところ、採食後 3 時間で〔図 26 - A, B〕の外貌を呈し、呼吸が苦しそうなことで診察した。心悸亢進と呼吸促迫、不安症状が認められた。胃カテーテルを経口的に第一胃に挿入したが、腹囲は縮小しなかった。

別冊 D 図 26 - A, B, C

問51 最も疑われる疾患はどれか。

1. 第一胃炎
2. 第一胃錯角化症（第一胃パラケラトーシス）
3. 第一胃鼓脹症（泡沫性）
4. 第一胃鼓脹症（遊離ガス性）
5. 第一胃食滞

問52 〔図 26 - C〕は正常および疾患時における牛の第一胃の腹腔内尾側望である。本症例の状態として最も適当なのはどれか。

1. ア
2. イ
3. ウ
4. エ
5. オ

課題27 次の文を読み、問 53、問 54 に答えよ。

〔図 27〕 はある病原体に感染した馬の体温、赤血球数および白血球数の推移を示している。

別冊 D

図 27

問53 最も疑われる疾患はどれか。

1. アフリカ馬疫
2. 日本脳炎
3. 馬伝染性貧血
4. 西部馬脳炎
5. 馬ウイルス性動脈炎

問54 この疾患に関する記述として適切なのはどれか。

1. 我が国では 20 年以上発生していない。
2. 原因ウイルスはアルテリウイルス科に属する。
3. ワクチンで制御されている。
4. 末梢血に担鉄細胞がみられる。
5. 非化膿性脳炎がみられる。

課題28 次の文を読み、問 55、問 56 に答えよ。

養殖ヒラメが〔図 28 - A〕のような外貌を呈した。〔図 28 - B〕は病変部の拡大像である。

別冊 D
図 28 - A, B

問55 最も疑われる疾患はどれか。

1. ヒラメラブドウイルス病
2. せっそう病
3. イクチオホヌス症
4. 白点病
5. リンホシスチス症

問56 本疾患に関する記述として適当なのはどれか。

- a 多様な魚種で発症する。
- b 患部に多核球状体が観察される。
- c 抗菌薬で治療できる。
- d 原因菌は褐色色素を産生する。
- e 自然治癒することが多い。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題29 次の文を読み、問 57、問 58 に答えよ。

犬、バーニーズ・マウンテンドッグ、雄、7か月齢。包皮口を舐めて気にすると
の主訴で来院。〔図 29〕は陰茎の外貌である。

別冊 D

図 29

問57 最も疑われる疾患はどれか。

1. 亀頭包皮炎
2. 包茎
3. 可移植性性器肉腫
4. 尿道脱
5. 尿道下裂

問58 治療として最も適当なのはどれか。

- a 包皮切除
- b 陰茎固定術
- c 陰茎切除
- d 尿道固定
- e 脱出した尿道の切除

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題30 次の文を読み、問 59、問 60 に答えよ。

犬、セント・バーナード、去勢雄、9歳齢。1か月前から右前肢を挙上するとの主訴で来院。〔図30-A〕は患肢のX線側方像、〔図30-B〕は病変部の細針吸引細胞診像（ライトギムザ染色、×1,000）である。

別冊 D
図 30 - A, B

問59 画像所見として適当なのはどれか。

- a 上腕骨近位の軟部組織の腫脹
- b 上腕骨近位を中心とした骨増生と骨溶解
- c 二頭筋腱の石灰化
- d 上腕骨骨幹部の病的骨折
- e 肩甲骨の骨溶解

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問60 最も疑われる疾患はどれか。

- 1. 多発性骨髄腫
- 2. 腺癌
- 3. 離断性骨軟骨症
- 4. 骨肉腫
- 5. 骨髄炎

